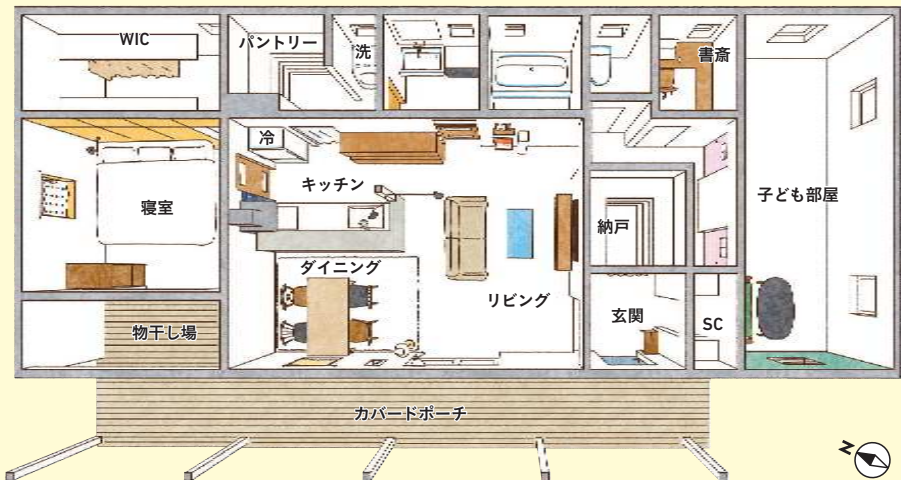


朝を気分よく 始められる 身支度動線がいい家

— 真下さん邸 —



住宅DATA

真下さん家族は夫婦2人。埼玉県にあるジョンソントウンの米軍ハウスを参考に、実際に使われている資材を使いながら、デザインを忠実に再現。キッチンと寝室を隣り合わせにした配置も注目。

竣工：2021年3月
延床面積：93.57㎡ (28.30坪)
構造・工法：木造軸組工法
施工：HUGHOME

米軍ハウスのような カッコいい 外観にひかれて

家を作るなら、米軍ハウスのようにしたいと決めていた真下さん夫婦。カッコいい外観はもちろん、玄関を入るとすぐにLDKがあるシンプルな間取りや、勾配天井とトップライトが合わさった開放感のある造りが、2人の好みにハマったそうです。

朝が早いというご主人にとってうれしいのが、身支度動線の短さ。寝室とサニタリーが近いので、起きたらすぐに用意ができます。LDKの隣に玄関があるので、朝食後すぐに家を出られるのもうれしいところ。

休日は、友人を招いてのんびりすごすのが真下さん夫婦の楽しみ。DIYした椅子とテーブルをカバードポーチに出して、お茶を飲むのも心地いい時間だそうです。

LDKからカバードポーチへとつながる掃き出し窓を観音開きにしたのも、本物をお手本にした建築士のアイデアです。





勾配天井の開放的なLDK。^{はり}梁と^{けた}桁（梁と直交する部材）を現しにすると和風住宅のような雰囲気になるため、LDKではそれをなくし、その代わりに流し台にかかる柱を補強材に。



キッチンの隣に寝室を配置したのは道路から離れているからというのも理由。車のエンジン音や通行人の足音が届きにくいので、落ち着いてすごせます。

朝、気持ちよく支度して家を出るためには寝室の位置が重要です。朝食の準備をしたり、顔を洗ったりするのに、キッチンやサニタリーから離れた場所だと、気持ちののりにくいもの。真下さん邸ではキッチンの隣に寝室を据えました。WICも寝室にあるので、着がえから朝食の準備がすぐ。寝室から物干し場に出られるので、ふとんを干すのもラク。

**キッチンの隣に寝室を配置
朝起きてから
朝食の用意までがすぐ！**



約18畳のLDK。正面の扉を開けるとサニタリーにつながります。キッチン背面のカーテンの先にパントリーがあり、サニタリーとつながりをつくったので、料理から洗濯への動きがスムーズ。



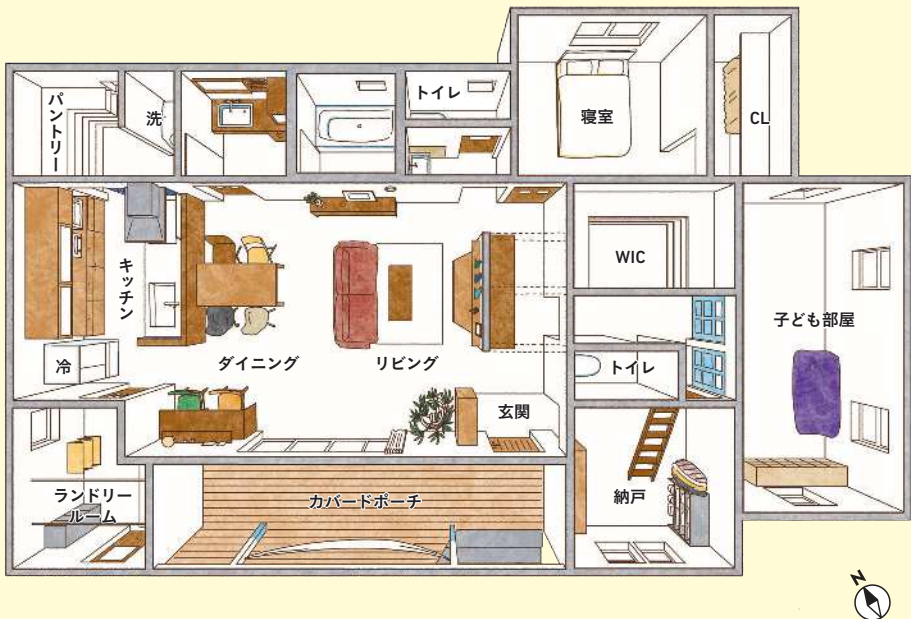
正面のカーテンの奥が納戸。土間続きなので、靴のまま出入りできます。右の1畳ほどのシューズクロークは目につきにくいのでオープンに。

LDKや個室、収納を広くとるため、玄関ホールや廊下を省くというアイデアがあります。真下さん邸では、玄関から直接リビングに上がれるようにしたことでスペースが生まれ、納戸を設けられました。玄関を入って正面に納戸を配置したのは、宅配便の受け取り時にLDKが丸見えになるのを防ぐため。来客が多い家はリビングドアをつけると安心です。

**玄関ホールや
廊下を省いたぶん
玄関に納戸を確保できました**

家事動線が短く すっきりをキープできる家

— 吉尾さん邸 —



住宅DATA

吉尾さん家族は夫婦と子ども2人。たくさんのアウトドアギアをしまえる納戸を設けたり、家事動線を短くする工夫をしたり、ランドリールームを配したりと、将来まで生活しやすい工夫があちこちに。

竣工：2018年5月
延床面積：105.16㎡ (31.81坪)
構造・工法：木造軸組工法
施工：HUGHOME



さわやかな色合いと、奥行きをもたせたカバードポーチが素敵な外観。緑豊かな庭との一体感も。

家族それぞれが喜ぶ 暮らしやすい家が完成！

アウトドア好きのご主人が新居に選んだのは平屋。たくさんのがアをラクに出し入れできるのが魅力だったそう。また、自分好みの間取りにしやすい平屋は、奥さまにとっても理想の家でした。吉尾さん邸では洗濯機置き場とキッチン、ランドリールームを近くに配して、洗濯と料理を同時進行できるようにしました。DKのそばに風呂を設けたので、料理中に子どもが入浴していても、気配を感じやすいのもうれしいところ。

広くとったカバードポーチはプールやハンモックなど、子どもの遊び場にも重宝。家族それぞれのうれしいが詰まった住まいのおかげで、家ですぐす時間がふえたそうです。



天気のいい日は洗濯物を外干するそう。急に雨が降ってきても、すぐに取り込めるよう、ランドリールームに勝手口を採用。

キッチン洗濯動線の通路にすることで LDでくつろぐ家族をジャマしないし 水まわりをコンパクトにまとめられます

限られた敷地に平屋を建てる場合、いかに余計なスペースをつくらないかが鍵となります。吉尾さん邸では、パントリー内に洗濯機置き場を配置。洗濯物を干すためのランドリールームを家の南西側に設け、その間にあるキッチンを洗濯動線の通路として兼ねました。LDに生活感を持ち込ませなくて済むし、水まわりをコンパクトにできることで、配管工事を安く済ませられるメリットも。何より洗濯を早くこなせるというのが、うれしいポイントです。



キッチンの南側にランドリールームを配置。鍋を火にかけながら、洗濯物を干すことができます。



洗濯動線



3カ所設けたトップライトにより、自然光がすみずみまで入る23畳のLDK。勾配天井にしたことで、背の高い観葉植物も元気づく育てられます。



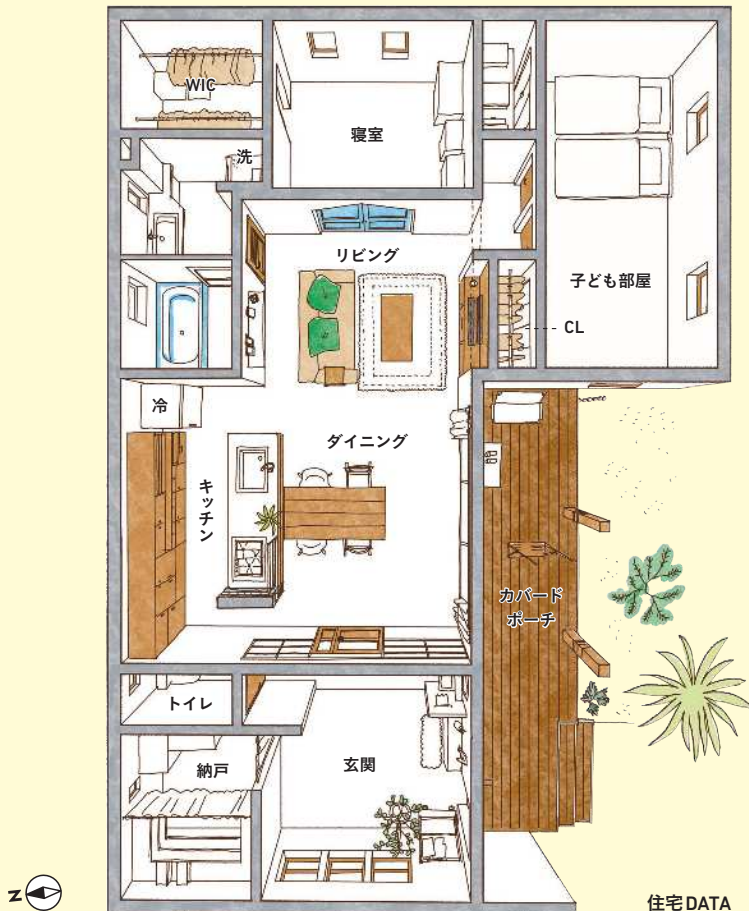
右：靴が多い吉尾さん邸では、玄関の靴箱とは別に納戸にも収納スペースを造作。玄関やLDKから目に入らない位置なのでオープン収納に。左：納戸の上部には収納に生かせるロフトがあります。右側の子ども部屋から天井際でつながっていて、子どもたちにとっては秘密基地のような楽しみが。

サーフボードやウエアを ゆったりしまえる納戸があると 玄関を常にすっきり保てます

天井の高さを自由にとれる平屋は、サーフボードのような高さのあるものも立ててしまえるのがよさ。吉尾さん邸ではそんなサーフボードをはじめ、キャンプギアや外遊びグッズも多く、出したりしまったりがラクにできるよう、玄関の隣に4・5畳の納戸を設けました。また将来、個室としても使えるように、廊下につながるドアや窓も用意。今はモルタルの床ですが、高さを上げてフローリングにリフォームすることが可能です。

内と外が 気持ちよくつながる家

— 前島さん邸 —



住宅DATA

竣工：2018年5月
延床面積：94.40㎡ (28.56坪)
構造・工法：木造軸組工法
施工：HUGHOME

前島さん邸は夫婦と子ども2人。見どころはダイニングの掃き出し窓の先に設けたカバードポーチです。床の高さが同じなので、室内からつながって見えるため、空間に奥行きを感じます。



70年代のアメリカの家っぽいレトロな外観が特徴。壁面の数字フォントや白い雨樋など、細部まで徹底したデザインに。

カバードポーチのおかげで子どもが外で遊ぶように

以前はマンション暮らしだったという前島さん家族。ワンフロアの暮らしやすさをマイホームにも求めて、平屋をセレクトしました。

前島さん邸があるのは住宅が密集した町中。隣家との距離が近く、外からの視線が入りやすいのが気になるところです。そこで工夫したひとつが窓。腰高窓は最小限にし、トップライトを設けて採光を確保しつつ、外からの視線を入りにくくしました。

もうひとつがカバードポーチの軒。軒を深くとることで隣家の2階から室内が見えにくくなります。おかげで、人目を気にせず、のびのび暮らせているそうです。



右：玄関の一角に手洗い場を配置。玄関でスノーボードやキャンプギアの手入れをした際に、すぐに手を洗えて便利です。左：奥さまの実家の庭の木にブランコがあったことから、新居にもブランコを採用。子どもが大きくなったらハンモックにつけ替える予定。

深い軒は日よけだけでなく 外からの視線をカットする役割も



玄関までつながる約7
畳のカバードポーチ。
室内と同じ床の高さに
設計したので、掃き出
し窓を開ければ、LDK
とひと続きで使えます。



門柱には沖縄産の花ブロックをあしら
って南国の雰囲気演出。空のような
色合いの外観ともよく調和しています。

平屋の大きな魅力のひとつが広いカバ
ードポーチです。カバードポーチとは屋
根に覆われたデッキ部分のこと。外との
つながりをつくるだけでなく、ゆったり
した造りが部屋のような心地よさを与え
てくれます。テーブルとソファを置いて
くつろいだり、自転車の手入れをしたり
と、すごし方はさまざま。前島邸では子
どもの遊び場にも活用しています。また、
日ざしや雨をよけるのに軒を深くとって
いるので、外からの視線をカットするの
にも役立ちます。

PART2

住みやすくて、
家時間が楽しい！
いまどき平屋



右：道路に面した玄関の西側に設けた袖壁は、耐震性を高めるうえ、通行人からの視線を遮るプライバシー保護にも役立ちます。左：玄関と廊下の段差を最小限にしたのもポイント。将来、足腰が弱ったときにうれしい造りです。

アウトドアギアを収納したり
手入れをしやすい
5.5畳の土間をつくりました

スノーボードや自転車など、大きなアウトドアギアを室内にしまうのに広い玄関は欠かせません。前島さん邸にはサーフボードやウエア、キャンプギアもありますが、玄関の一角に大きな納戸を設けたので、すっきり隠すことに成功。また、玄関を広くとることでゆったりと手入れができるのも魅力。天候や時間などを気にせず、気が向いたときに作業ができます。LDKと玄関の間に仕切り壁をつければ、作業の音や匂いの広がりを抑えるのにも役立ちます。

光が入りにくい部屋には トップライトを設けて 明るさを確保

明るくて居心地のいい平屋をつくるためには、掃き出し窓のほかには、アルファの工夫が必要。お金をかけずに、手軽に採用しやすいのがトップライトです。前島さん邸ではキッチンとリビングの天井に採用。北側に向かって低くなる片流れ屋根なので、直射日光ではなく、間接的なやわらかい光が室内に注ぎ、まぶしさを感じません。夏の間、室内が暑くなりにくいのもいいところです。



右：ダイニングの奥の仕切り壁の先が玄関。内窓を採用したのは、空間に奥行きをつくるほか、玄関に光を届きやすくする目的も。左上：北側に位置するキッチンですが、トップライトのおかげで夕方まで明るさが続きます。雨が降ってきたときも気づきやすいため、すぐに洗濯物を取り込みに行けるのもうれしいところ。左下：ソファの上部にトップライトを設けたことで、夜はリビングでくつろぎながら星空観察を楽しめます。

